

古民家の野外博物館

# 日本民家園だより

昭和62年度第4号

〈通号第11号〉

発行 63.2.1

川崎市立日本民家園

川崎市多摩区狛形7-1-1

電話(044)922-2181(代)

印刷(資)永申社

## 分棟型民家の北限、旧太田家住宅

- 旧太田家住宅
- 国指定重要文化財
- 寄棟造り茅葺き 二棟
- 平面積 161.45㎡  
(約48.8坪)
- 旧所在地 茨城県笠間市  
片庭
- 昭和42年10月 太田守彦  
氏より川崎市に寄贈
- 昭和43年4月 国重要文  
化財に指定
- 昭和43年12月 解体工事  
に着手
- 昭和45年3月 移築復原  
完了



旧太田家住宅

### ◆南・北両系の特色がある 分棟型民家

この家は「笠間稲荷」で知られている市の西  
北方にありました。名主の家柄と伝えられてい  
ますが詳しくはわかりません。元禄の年号があ  
る位碑が仏壇にありましたので、このころより  
この地に住んでいたと思われます。

建物は主屋が17世紀後半、土間は18世紀中期  
の建築とみられています(解体跡地発掘で土間  
の前身建物は掘立て柱であることが、わかりま  
した)。このように主屋と土間が二棟になって  
いる家を分棟型・別棟造りと呼び、南方系の民  
家であるといわれています。しかし、この家は

土間から曲り屋状に張り出した「うまや」があ  
ることや、主屋「ひろま」の「いろり」のとこ  
ろへ土足のままで行けるなど北方系の要素もあ  
り、両系の特色を併せもつ貴重な民家で、分棟  
型住宅の地域的な北限であるといわれています。

### ◆みどころ

- 前記の南北両系の特色
- 土間の面積が同  
じ分棟型の旧作田家に比べて広い(農・漁業の  
違い)
- 「ざしき」横の竹格子窓
- 二棟の間にかかる樋

## (園の動き)

### ◆ 文化財ボランティア講座

<10/17・24・31, 11/14・21・28>

園内各古民家の特徴について講義しました。

### ◆ 第5回民家園協議会開催<11/18>

(仮称)本館建設基本構想の最終的なまとめをするための協議が、助言者を加えて行われました。

### ◆ 民具づくり教室<12/6・13>

ダイコンジメ、ゴボウジメ、タマカザリ、ワカザリなどのしめ縄の製作に延べ42名の参加者がありました。



### ◆ 親と子の手づくり教室<1/10>

小正月のマユダンゴづくりに29名の親子が参加し、楽しい雰囲気の中で昔の風習を体験しました。

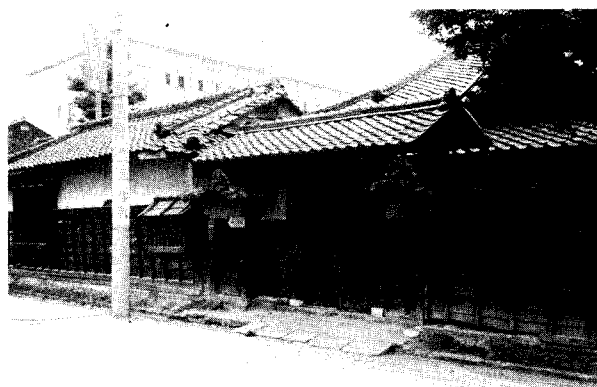
### ◆ 旧佐地家の門復原工事<12/11~>

この門は、元名古屋市中区長坂町という尾張藩城下町の遺構で、古くは「石川升右エ門」邸と呼ばれた250石取りの藩士の家の門であった。(『名古屋絵図』、『稿本藩士名寄』による。)

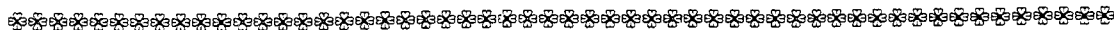
道路拡幅のために取り壊すこととなり昭和45年に佐地悌道氏より寄贈された。18世紀初めの建築と推定されている。

木造、棧瓦葺で間口1.9mの棟門、延長約10.6mの塀、入母屋一重、9.2m×5.3mの供待(お供が主人の帰りを門の脇で待つ所)である。

(一般公開は5月頃の予定です。)



旧佐地家の門



## 3月までの行事案内

### ◀ 年中行事展示 ▶

### ◆ 親と子の手づくり教室(草ダンゴ作り)<2/28(日)>

○申込 2/21(日)午前9時から電話で、先着順

○定員 20組 ○教材費 300円

### ◆ 民具づくり教室(紙すき)<3/13(日)>

○申込 2/28(日)から往復ハガキで、先着順

○定員 30名 ○教材費 1,000円

※紙すきについては、次頁をご覧ください。

◆ 節分<2月中> イワシの頭とヒイラギなどを飾る。

◆ 八日僧(ヨウカゾ)<2月中>

◆ ひな祭り<3月中> ひな人形かざり

◆ 蚕影山祭り<3月中> 養蚕の神様のお祭り

# 手漉き和紙についてご紹介

—民具づくり教室から—

我国に昔から伝えられている紙の抄造法<sup>しょうぞうほう</sup>（手漉きによる製紙法）は、7世紀の初頭中国より朝鮮を経て輸入されました。その原料には、楮<sup>こうぞ</sup>・三桠<sup>みつまた</sup>・雁皮<sup>がんぴ</sup>などの外皮の繊維が用いられており、昔から様々な種類の紙に加工されてきました。これまでも幾人かの人々が大量生産をめざしてその抄造工程を機械化したこともありましたが、結局手漉きによる紙以上のものができず、昔ながらのやり方に戻らなければならなかったと言われていいます。おそらく千数百年前の先人が、最上の抄造法を極めてしまったということでしょう。

(1)



楮の刈り取り

(2)



楮を蒸す

(3)



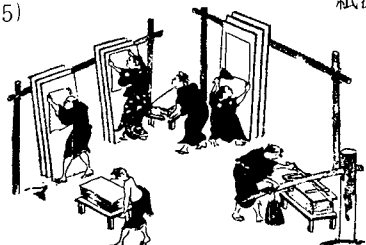
皮を叩く

(4)



紙漉き

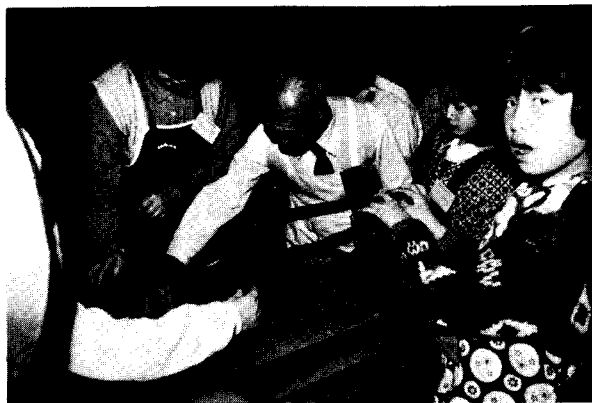
(5)



紙を干す

手漉き和紙を作る工程は、概略以上のようなものです。①楮などを10月中旬から冬至のころまでに伐採し、これを釜で蒸し、皮を剥ぎ天日で干すと黒皮になる。②黒皮を流水に浸し、小刀で粗皮を除き白皮にする。③白皮を灰汁等で煮てあく抜きをし、その後棒で叩いて繊維をほぐす。④それを箱船（漉き船）に入れ、水を加え攪拌した後、黄蜀葵<sup>どろろあらい</sup>の粘液を投入する。⑤そうやってできた楮液を簀で漉き、水を切り、一枚ずつ刷毛で板に張りつけ天日で干す。

以上のように、紙漉きは俗に「四十八手」といわれるように多くの手数がかかります。それゆえ、出来上がった和紙は美しく丈夫なものとなります。日本民家園では、今年も3月13日（日）に⑤の工程を中心とした紙漉きを行います。お申し込みは、2月28日（日）から往復ハガキで先着順にお受けいたします。なお教材費が千円かかります。どうぞ奮って御参加下さい。お待ちしております。



昨年度の「紙漉き」風景

## 民具製作技術保存会行事案内

- ◆ワラジ・ハケゴ製作実演 2 / 14（日）
- ◆六ツ目編（麻の葉編）・機織り実演 2 / 21（日）
- ◆ソウリ・ハケゴ製作実演 3 / 13（日）
- ◆菊底ザル製作実演 3 / 20（日）
- ◆会員作品展覧会 3 / 20（日）～4 / 10（日）

※詳しくは民家園事務所まで、お問い合わせ下さい。



# 投書箱から

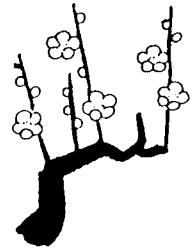
入園者から寄せられたご感想・ご要望の中からいくつかを紹介し、園からのコメントを添えさせていただきます。

## 感想

- ◇ イスラエルからのお客を案内し、大変よろこばれ私の心もさわやかです。日本の昔を偲ばせる古民家を、あまり近代化しないで下さい。今後のご発展を祈ります。(東京都在住 54歳)
- ◇ 多くの民家を集めてあり、子ども時代を想いだし感激しました。(横浜市在住 76歳)
- ◇ 水車小屋とか昔の家がとても古くて印象深かった。カマドや台所も古く、テレビで見たこともあるが、実際に観てとても勉強になりました。またきたいです。(横浜市小学生 9歳)
- ◇ 私は民家園によく遊びにきます。社会科の勉強に役立ちました。(川崎市小学生 11歳)

## 要望

- ◆ 出口付近に水飲み場を設置してください。(東京都在住 30歳)
- ◆ ベンチを増やしてほしいです。(川崎市在住 45歳)
- ◆ 車椅子では不便な所が多いです。(町田市在住 養護学校生)
- ◆ 虫いぶしは、お客の少ない時にできないでしょうか。(横浜市在住 59歳)



## 園からのコメント

- ◇ 水飲み場は、現在2ヶ所あります。今後の増設は場所も含め考えてまいります。
- ◇ ベンチのことは、前にもご要望があり、検討してまいりました。本年度、白川郷 旧山下家の前にあります休憩所のベンチを新しくいたしました。なお、いままでありましたベンチは、園内に移動させ、ベンチの数を増しましたので、どうぞ、ご利用ください。
- ◇ 民家園は、多摩丘陵の自然を生かした古民家の野外博物館です。山ひだの中に古民家を点在させておりますので、車椅子では、ごく一部しか見られないと思います。今後研究してまいります。
- ◇ くん煙作業は、古民家を保存していく上で大切な仕事です。なるべくご迷惑にならぬよう心がけてまいります。ご投函ありがとうございました。



## 手作り宝船(わら細工)の 幸運者!!

毎年恒例になっている「宝船の贈呈」は新年の第1日曜日に、入園された方の中から、1名にプレゼントされるものです。突然の「おめでとう」にビックリ、縁起のよい宝船を手到大喜びの方は、横浜市在住の平戸 克成さん(74歳)でした。

<談> 写真が大好きでもう5回も民家園を訪れました。今年には私にとって大変ラッキーな年です!!とエビス顔

## 編集後記

新年あけまして おめでとう  
ございます。

昨年は卯年で、跳ね廻る事の多い一年でしたが、本年は昇龍のごとく、ともに昇る意気も新たに、職員一同頑張りますのでよろしくお願い申しあげます。62年度最後の民家園日よりをお届けします。63年度も、さらに内容を高め皆さんから、親しまれる広報紙が作れますよう努力いたしたいと存じます。